

P06 八代海南部の海底で発見された海丘群の潜水調査報告

伊藤弘志：海上保安庁海洋情報部技術・国際課海洋研究室
和志武尚弥・那須義訓：第十管区海上保安本部海洋情報部

2004年の9月から11月にかけて、八代海南部海域において第十管区海上保安本部所属の測量船「いそしお」によるマルチビーム測深機(SeaBat8101)を用いた沿岸測量が行われた。その結果、水俣市から西南西約10km、水深約35mの海域に、直径約50m、比高約5mのほぼ円形の高丘からなる高丘群が発見された。これらの高丘はただちに船舶の安全な航行に支障を及ぼすものではないが、他に類を見ない特異な地形であることから、その実態を明らかにするための潜水調査が2009年2月に行われたので、その結果を報告する。

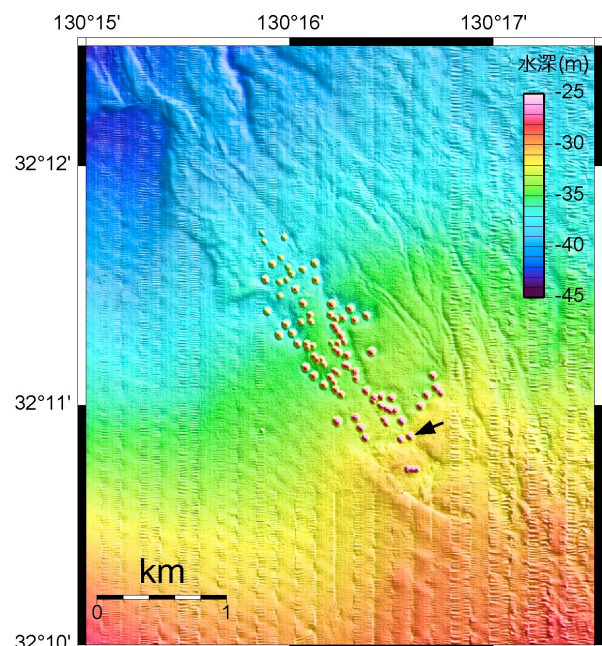
高丘群は、北西-南東方向に伸びた長径約2.3km、短径約0.8kmの細長い楕円形状に分布している。高丘群を構成する高丘は88個あり、ほとんどのものは独立して存在するが、いくつかのものは一部が重なっている。高丘群の内部では高丘はランダムに分布しているのではなく、全体の伸びと同じ北西-南東方向の直線上に並んだ数個ずつの高丘からなるサブグループが集合することによって形成されているように見える。直径に対して比高の小さい扁平な形状(約10:1)を示しており、その周りには浅いモートが形成されていることがある。山体の側斜面は山頂付近で傾斜が緩く、山裾の部分で傾斜が急になる円弧の一部のような形状を示しており、安定角に支配される火山などの形状とは異なっている。

今回の調査は、第十管区海上保安本部所属の巡視船「さつま」所属の潜水

士により行われた。調査の対象としたのは、 $32^{\circ}10'52.3''N$ 、 $130^{\circ}16'35.5''E$ に位置する高丘である(図中の矢印)。

潜水調査により、高丘の表面は山頂部から脚部までカキの一種であるカキツバタに覆われており、その下の高丘表層部は非常に軟らかい砂からなっていることが明らかになった。カキツバタの他にはイソギンチャク、サンゴ、カニ、海綿、ヤギ類等の生物が観察された。これらの生物は高丘の表面にのみ生息しており、底質試料を採取する際に10cmほど表層から掘り下げると生物は見られなかった。

今回の調査ではこの高丘群の成因を特定できるような証拠は見つからなかったが、付近の潮流等に関係している可能性がある。



高丘群とその付近の地形